

自己評価報告書

平成23年4月11日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242016

研究課題名（和文） 東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Studies on forms and materials of administrative documents from East Japan and Asian regions in the pre-modern era

研究代表者

山本 隆志（YAMAMOTO TAKASHI）

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・教授

研究者番号：50191416

研究分野：日本中世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：料紙繊維、色部文書、秋田家史料、切紙、尚家史料、上江洲家文書、東アジア古文書料紙日韓研究集会、礼節体系

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、日本列島における文書・記録の形態・料紙の展開を、東国地域及び東アジア諸国（中国・朝鮮・琉球等）の諸文書の原本に当たって調査を行い、現在まで調査を重ねてきた畿内近国のそれと比較検討することにより、3つの融合の段階と展開の様相を明らかにすることである。

研究内容

（1）室町・戦国時代の東国地域の武士が発給した文書調査

（2）東アジア諸国（中国・朝鮮・琉球等）の12世紀以降の一般行政文書の原本を調査する。

料紙の調査内容は料紙の縦横の寸法・厚さ・重量・簀目本数・糸目幅の計測データを採取し、料紙表面の板目・刷毛目・紗目・吊皺さらに料紙繊維の状態・不純物の残存状況や添加物状態などを観察し、調査データを蓄積する。

（3）古文書・古記録料紙の復元製作実験

2. 研究の進捗状況

（1）東国地域の文書としては、新潟県立博物館所蔵の色部文書（全点）と茨城県立歴史館寄託の芹沢文書（全点）を調査し、東北大学図書館所蔵秋田家史料は秀吉期まで調査を終えている。色部文書では書状の形態や紙質に新知見を得ている。いずれも詳細な調査表を電子化してあるが、色部文書については研究者にむけて整理したものを、平成23年4月にはホームページに公開する。

（2）東アジア諸国の形態・料紙調査

①中国については、2010年3月北京の中国自然院自然科学史研究所にて同研究所の研究者と研究集会（紙研究ワークショップ）

を開催した。中国での紙製作復普及の歴史、日本における料紙変遷、日本中世文書における料紙の使われ方などが発表され、さらに研究情報を交換した。また清華大学劉曉峰副教授収集清代文書、山東建築大学姜波副教授収集清代民間文書の原本を調査するとともに、劉副教授の指導のものに山東賞紙房村にて桑原料の紙生産の在り方を視察した。

②朝鮮の料紙については、韓国の朴竣鎬（国立清州博物館）・宣承慧（国立中央博物館）らを招き、2008年12月東京大学において東アジア古文書料紙日韓研究集会を開催した。韓国・日本の合計7人の研究者が、日・韓における料紙の変遷過程や技術発展さらに古文書料紙観察方法に関する研究を発表するとともに、日韓に紙原料と技術交流の在り方を議論した。

③琉球については、那覇市立歴史博物館所蔵尚家史料原本のうち約250点を調査し、データ化した。また久米島自然文化センターの上江洲家文書についても約200点を調査した。

（3）古文書料紙の復元製作実験料紙の復元製作実験としては、3回にわたり、高知県紙産業技術センターにて、古代・中世の料紙製作を想定しながら、実験製作した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由。当初予定していた研究分野につき、どの分野も成果をあげている。

東国地域文書調査では、色部文書という一括性のある文書群の料紙内容が明らかとなり、今後の東国文書料紙調査の基準を提供できるとことに来た。

東アジア諸国文書では、朝鮮の礼節体系と料

紙との関係、さらに李氏朝鮮時代における楮の日本からの輸入と使用が明らかとなった。また琉球文書の調査では、尚家史料でも、上江洲家文書でも、料紙としては杉原紙・竹紙・芭蕉紙等を明らかにした。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 東国地域文書調査

東国地域文書の料紙原本調査は全体としては遅れているので、今回の調査結果が今後の料紙調査に生かされるよう、調査基準を提供する。とくに料紙の顕微鏡調査について、その顕微鏡写真を撮影し、公開できるようにする。

(2) 東アジア諸国文書

朝鮮の文書原本の調査が少ないので、原本調査を実施する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計18件)

①山本隆志 東国における武士と法会・祭礼との関係—足利鐙阿寺・宇都宮神宮寺一切経会を中心に— 査読無 歴史・人類 39号 2011年 3～49頁、

②富田正弘 古文書料紙研究の歴史と成果—檀紙・奉書紙と料紙分類— 査読無 東北中世史研究会会報 20号 2011年 1～47頁

③湯山賢一 古代料紙論ノート—延喜式にみる製紙工程をめぐって— 査読無 正倉院紀要 32号 2010年 71～84頁

④石田実洋・橋本雄 壬生家旧蔵本『宋朝僧捧返牒記』の基礎的考察 査読有 古文書研究 69号 2010年 14～34頁

⑤小島浩之 東京大学総合図書館鳴外文庫「明代勅命」管見 査読有 漢字文献情報処理研究 10号 2009年 4～16頁
朴竣鎬 韓国の古文書形式と礼制体式 査読有 古文書研究 67号 2009年 1～13頁

[学会発表] (計16件)

①富田正弘 いま古文書料紙研究では何が問題なのか 日本古文書学会 2010年9月25日 松山市にぎたつ会館

②富田正弘 古文書の働きと料紙 東北中世史研究会 2010年1月8日 東北大学図書館

③湯山賢一 日本における古文書料紙の変遷 東アジア古文書料紙日韓研究集会 2009年12月13日 東京大学経済学部

④小島浩之 東京大学総合図書館鳴外文庫明代勅命について 東アジア古文書料紙日韓研究集会 2009年12月13日 東京大学経済学部

⑤大川昭典 典具帖紙の製作過程(高知県特産紙の紹介) 東アジア古文書料紙日韓研究

集会 2009年12月13日 東京大学経済学部

⑥朴竣鎬 韓国の古文書形式と礼制体式 東アジア古文書料紙日韓研究集会 2009年12月13日 東京大学経済学部
宣承慧 朝鮮時代における倭紙の記録について 東アジア古文書料紙日韓研究集会 2009年12月13日 東京大学経済学部

[図書] (計3件)

①柳原敏明、中世日本の周縁と東アジア、吉川弘文館、346頁、2011年

②丸島和洋、戦国大名武田氏の権力構造、思文閣出版、405頁、2011年

③湯山賢一、文化財と古文書学—筆跡論—、勉誠出版、294頁、2009年